言葉の重み

浦安市立浦安中学校１年　木村　乃聖

「助けて」
この一言でどれだけ状況が変わるだろう。
「大丈夫」
この一言でどれだけ救われるだろう。

近頃、著名人や私達と同じくらいの年齢の人達が若くして誹謗中傷やいじめなどによる自殺の事件をテレビニュースや新聞で何度も見かける。そのようなニュースをみる度に私は誰かに助けを求め、死というあってはならない現実を止めることは出来なかったのだろうかと常に思う。

誹謗中傷、差別、いじめ、非行など様々は言葉があるがこのような言葉はなぜ生まれてしまったのだろうか。特に最近はＳＮＳの需要が高まりネット社会になりつつある。インターネットを通して嘲笑う人や心無い言葉を書き込む人が増加しているようにも感じる。私達が毎日のように使っている画面の裏にはたくさんの卑劣な言葉あり苦しんでいる人が大勢いる。簡単に書き込める時代になってしまったからこそ一言一言の重みを、きっと理解できていないのだろう。たとえ軽い気持ちでも、悪気はないと思っていても自分が発してしまった言葉や態度で辛い思いをしている人がいるということを肝に銘じてほしいと私は思う。平気で人の気持ちを考えずに軽率な発言をしているつもりかもしれないが、相手にとってはその言葉がナイフとなって、深く傷つくことを分かり合えないのだろうか。

外側から見たらその人は平然を装って、笑顔でいるかもしれない。一目見ると余裕があるように見えるかもしれない。でもその裏で心が泣き叫んでいるかもしれない。

私も人間関係でとても悩んだことがある。
「消えればいいのに。」

私は仲良いと思っていた友達と廊下ですれ違った際に突然言われたその言葉に心臓を突き刺されたような感覚に陥った。この頃は１人だけ暗闇の中にいるようで泣くことしか、出来なかった。
「友達とは何か 。」
そのひとつのテーマをずっと考え込んでいた。とても自分を責め、追い込んで精神的にも壊れそうだったが、声を発したら先生や友達、家族が寄り添ってくれて話を聞いてくれるだけで少しだけでも楽になることができた。なにより周りの人達が支えてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいだったことを覚えている。挨拶をしてくれたり話かけに来てくれるなど、些細な行動が嬉しく感じた。私はこのとき、言葉は人を傷つける凶器にもなるけれどやっぱり一番は挨拶をする、声をかけてあげるなどのことでコミュニケーションをとり、笑顔でいられるように作られたのだなと再認識した。そして、
「友達とは何か 。」
その答えは毎日に彩りと喜びを与えてくれるものだと感じた。だから少しでも悩みを抱えている人の力になるには、どうしたら良いのかを考えるとやはり私には積極的に話を聞いたり、相談に乗ってあげることしかできない。

だから犯罪や非行のない明るい社会にするためには出来事が起こってから相手を責めるのではなく悪いことに手を染めてしまう前に、話に耳を傾けたり支え合ったり、人と人がコミュニケーションを取り合い、ＳＯＳのサインを見落とさずに気づいてあげる思いやりを持って行動をするなどの小さな取り組みからより良い社会になるのではと考える。また、心がマイナスなことでいっぱいになってしまう前に声をあげることが大切だ。日本人はあまり声を出さないで一人で抱え込む人が多いという印象を受ける。だけど、声を発することで力になってくれる人は必ずいると思う。そのため、心が助けを求めている人には暖かい気持ちで手を差しのべることが大切になる。

きっとこれからもっとインターネットが、充実してきて色々なこ

とを書き込む人達がさらに増えると思うがＳＮＳ等を使用する人は誰かを傷つけるために使用するのではなく、正しい使い方をする人が増え、自分を閉じこめてしまわぬように声を発して家族や友達、周りの人達がいてくれることを忘れないでほしいと強く願っている。また、お互いがお互いを認め合い短所だけを見つけるのではなく長所を見つけながら関係を保っていくのが、明るい社会にするために必要とも思う。

誹謗中傷や非行が一刻も早く無くなりこの世界が平和で明るく笑顔に満ち溢れますように。